アブラハム、イサク、ヤコブとの神の契約

「あなたはこの地に、滞在しなさい。わたしはあなたとともにいて、あなたを祝福しよう。それはわたしが、これらの国々をすべて、あなたとあなたの子孫に与えるからだ。こうしてわたしは、あなたの父アブラハムに誓った誓いを果たすのだ。そしてわたしは、あなたの子孫を空の星のように増し加え、あなたの子孫に、これらの国々をみな与えよう。こうして地のすべての国々は、あなたの子孫によって祝福される。これはアブラハムがわたしの声に聞き従い、わたしの戒めと命令とおきてとおしえを守ったからである。」(創世記26:3-5)

契約の性質

神と神の民との関係は聖書の中では「契約」ということばで表されている。契約は一定の約束と義務を内容とする法律的協定である。神とその民との契約は人間同士の法律的協定とは異なっている。なぜならそれは聖い神と神を敬う民との間の霊的協定でもあるからである。契約ということばは最初、創世記6章18節で用いられているけれども旧約聖書を通じて繰返し出てくる。それはまた新約(「新しい契約」を意味する)聖書でも用いられているけれども神はそこではイエス・キリストを通して全人類と新しい約束と協定を結んでおられる(→「**旧契約と新契約**」の項 p.2363)。神の民の最初の先祖あるいは「創始者」である族長たち(アブラハム、イサク、ヤコブ)との神の契約を理解すると、神との契約関係の中で神が私たちにどのように生きることを望んでおられるかがわかってくる。

(1) 旧約聖書で神が契約を結ぶときの特別な名前はヤハウェ(「**主**」と訳されている →創2:4注, 出3:14注)である。この名前は「わたしはある」という意味で、神はご自分のことを出エジプト記3章14節でそのように呼んでおられる。この称号は神の権威と指導性を示しているけれども同時に神の愛、個人的な必要を備えてくださること、人類の目的を回復しようとしておられること、神の民といつもともにおられること、神に頼る人々と個人的関係を持ちたいと願っておられることなどを反映している。神の名前はそれぞれが神の特性の一つの面を示しているので、私たちはそれを知り理解することが必要である。神はただ一人である。けれども様々な性格を持っておられる。

(2) この契約の根本には、「わたしがあなたの神、あなたの後の子孫の神となる」(→創17:7注)という主の約束がある。契約には多くの約束が含まれているけれどもそれらの約束はみなこの約束を土台としている。つまり神が忠実な民に対しては彼らの神となると約束して自らそれを固く守り、人々を愛して恵み(受けるにふさわしくない好意)と保護と祝福を与えてくださることを意味している(⇒エレ11:4, 24:7, 30:22, 32:38, エゼ11:20, 36:28, ゼカ8:8)。

(3) 神の契約の究極または最終的目標は一つの民族(イスラエル)だけではなく全人類に救いをもたらすことだった。神は既にアブラハムを通して「地上のすべての民族」は祝福されると約束しておられた(創12:3, 18:18, 22:18, ⇒26:4)。神の契約はイスラエル民族を通して与えられたけれども、それはイスラエルが「諸国の民の光」、つまり神の恵みとご計画がすべての民に及ぶことの見本となるためだった(イザ49:6, ⇒42:6)。そしてこの契約はイエス・キリストを通して最終的に成就し、キリスト者は全世界にキリストについてのこのよい知らせをを宣べ伝えていったのである(→ルカ2:32, 使13:46-47, ガラ3:8-14)。

(4) 聖書の中で神が個人と結んだ契約の中の協定を見ると次の二つの原則が教えられている。(a) 神だけが契約の約束と義務を確立された。(b) 人間には従順な信仰をもってそれを受入れることが求められている。神は双方の約束と責任の概要全部を契約が結ばれる前からしばしば示しておられた(→「**イスラエル人との神の契約**」の項 p.351)。けれどもこの人々は契約の条件について神と取引きできる状態ではなかった。神が愛をもって人々にとって最高で最善のことを決めて人々の益を願っておられることをただ信頼すること

を学んでいったのである。

アブラハムとの神の契約

(1) アブラハムとの契約関係に入ったとき(→創15:)、神はいくつかの約束をされた。それは神がアブラハムの盾となり報いとなること(創15:1)、多くの子孫を与えること(創15:5)、カナンの地を嗣業として与えることである(創15:7, →創15:6注, 17:8注, ⇒12:1-3, →「**アブラハムの召命**」の項 p.50)。

(2) 神はアブラハムがこれらの約束に信仰をもって応答し約束を受取り、神を自分の生涯の導き手、権威として信頼するように願われた。そのようにしたとき、アブラハムは神によって義と認められ(創15:6)、神との個人的な関係が信仰または「積極的信頼」を土台として確実なものになったのである。

(3) 契約を受入れるためには信仰が必要だったけれども契約の祝福が継続するために神はアブラハムが服従することを求められた。

(a) 神はアブラハムが「全き者で」(→創17:1注)あるように命じられた。言い換えるなら、信仰に従順が伴わないなら(⇒ロマ1:5)、アブラハムは人類に対する神の永遠のご計画を成就するために用いられなくなるのである。不従順がアブラハムを失格させるのである。

(b) あるとき、神は息子イサクをささげることを要求して(創22:1-2)、アブラハムを試みられた。アブラハムがそのテストに合格したとき神は契約を継続することを約束された(→創22:18注)。

(c) アブラハムが神に従い神の命令を守ったので(創26:4-5)、契約の祝福がなおも有効でありイサクにも引継がれると神はイサクにはっきりと通知された。

(4) 神はアブラハムと子孫に対して、男子には割礼(男性性器の包皮の全部または一部を切取る、あるいは除去する)を施すように特別に命令された(創17:9-13)。これは神に従い契約を受入れるしるしだった。割礼を受けない男性は契約を破ったことになるので神の民から断たれてしまう(創17:14)。神に従わないことは契約の祝福を失うことだった。

(5) アブラハムとの神の契約は「代々にわたる永遠の契約」(創17:7)と呼ばれた。神はそれが永遠の協定となることを意図しておられたし、民も永遠の協定として期待することができるという意味である。けれどもアブラハムの子孫がこの契約を破るなら神はもはやその約束に縛られなかった。たとえばカナンの地がアブラハムとその子孫のものになるという約束(創17:8)はイスラエル民族が神を信じる信仰を拒んだとき、ユダ族が神に背を向け神の律法に従うことを拒んだときに破られた(イザ24:5, エレ31:32)。その結果、イスラエルはアッシリヤへ捕囚として連れ去られ(Ⅱ列17:)、ユダは後にバビロンへ捕囚として連れて行かれた(→Ⅱ列25:, Ⅱ歴36:, エレ11:1-17, エゼ17:16-21)。

イサクとの神の契約

(1) 神はアブラハムの息子イサクから始めて、そのあとの各世代と契約を更新していかれた(→創17:21)。けれどもそのときアブラハムが父であるという条件だけでは十分ではなかった。イサク自身も信仰によって神の約束を受入れなければならないのである。そのとき初めて神は、「わたしがあなたとともにいる。わたしはあなたを祝福し、あなたの子孫を増し加えよう」と言われた(創26:24)。

(2) イサクとリベカには結婚生活の20年間、子どもができなかった(⇒創25:20, 26)。けれどもイサクは妻が妊娠するように必死になって熱心に祈り(創25:21)、神はこの祈りを聞いてくださった。この子どもは夫と妻との間の自然の方法を通してではなく、祈りと神の恵みによって神の約束として生れたことをイサクは理解しなければならなかった(→創25:21注)。

(3) イサクもまた契約の祝福を受けるためには従順でなければならなかった。たとえばききんがカナンの地を襲った時、神はイサクにエジプトへ下って行かないで、今いるところにとどまるように命じられた。もし神に従うなら、神は「あなたの父アブラハムに誓った誓いを果たす」(創26:3, →26:5注)と約束しておられる。

ヤコブとの神の契約

（1）イサクとリベカにはエサウとヤコブという二人の子どもがいた。普通、契約の祝福は最初の子どもを通して伝承されていく。けれども神はリベカに兄が弟に仕えるであろうと啓示された。エサウは自分の長子の特権を軽視した（→創25：31注）。エサウは両親の示した正しい基準を尊重しないで、まことの神に従わない二人の女性と結婚した。エサウは神の契約に関心を示さなかった。けれどもヤコブは将来の霊的祝福を望んで、エサウが愚かな選択をして失った約束を受取った（創28：13-15）。

（2）アブラハムやイサクの場合と同じように、ヤコブとの契約でも、その継続のためには「信仰の従順」（ロマ1：5）が要求された。生き残り成功するためにヤコブは最初自分の器用さと機知に頼っていた。したがってヤコブが主に従いハランを去ってベテルに戻ったときに初めて（創31：13，35：1-7）、神は契約の約束を更新されたのである（創35：9-13）。

契約について →「イスラエル人との神の契約」の項 p.351